

沖縄県栽培漁業センターの概要

1. 沿革

- (1) 昭和55～58年度 用地取得及び基本整備事業
- (2) 昭和58年4月 沖縄県水産試験場の支場として設置される(沖縄県行政組織規則第208条。昭和58年3月31日改正。組織の名称: 沖縄県水産試験場支場栽培漁業センター)
- (3) 昭和58年10月25日 開所式
- (4) 昭和59・61・62年度 増強施設整備事業(水槽上屋・加温施設・濾過施設等の整備)
- (5) 昭和63年4月 水産試験場支場の位置づけから独立。組織の名称: 沖縄県栽培漁業センターとなる(沖縄県行政組織規則第208条の2。昭和63年3月31日改正)
- (6) 平成3～5年度 第4～5次増強施設整備事業(中間育成場造成(828,209千円)及び小割生簀設置。網倉庫建設)
- (7) 平成8～12年度 増設工事(甲殻類棟、親魚棟、貝・ウニ棟、餌料培養棟、機械棟)
- (8) 平成24年度 陸上養殖実験棟建築
- (9) 平成28年度 20kL陸上養殖実験水槽、50kL陸上養殖実証水槽施設設置(甲殻類棟)
- (10) 平成31年度 国道449号線拡幅工事に伴う栽培漁業センター再構築事業(実施設計)
- (11) 令和2年度 栽培漁業センター再構築事業(ウニ棟・車庫解体及び新設)に伴う敷地面積の縮小

2. 組織および運営方式 沖縄県－農林水産部－水産課－栽培漁業センター(県営)

3. 所在地

住所 : 〒905-0212 沖縄県国頭郡本部町字大浜 853-1
 TEL : (0980)47-5411・51-6023 FAX : (0980)47-5412 Eメール : xx048445@pref.okinawa.lg.jp
 交通手段 : 車・・・空港～高速～名護:約75km、1時間30分、名護～裁セ:約20km、30分
 : バス・・・空港(111番)～高速～名護、1時間40分・名護(65番)～第二大浜:40分
 webサイト : <http://www.pref.okinawa.lg.jp/norin/saibai/index.html>

4. 職員及び主な担当業務

所 長(技術)	玉城 英信	総括
副 所 長(技術)	中村 博幸	餌料培養、魚介類種苗生産等総括
主任研究員(技術)	岩井 憲司	沖縄振興特別推進交付金事業(交付金事業)
主任研究員(技術)	紫波 俊介	貝類、ウニ類種苗生産、餌料培養
研 究 員(技術)	山内 岬	餌料培養、魚類種苗生産、放流技術開発
研 究 員(技術)	長濱 秀紀	餌料培養、魚類種苗生産(コロナ対策課兼務)
研 究 員(技術)	島袋 誠菜	餌料培養、魚類種苗生産
研 究 員(技術)	照屋 秀之	餌料培養、魚類種苗生産
主任技師(再・時短)(技術)	諸見里 聡	餌料・モズク培養、貝・ウニ・魚類種苗生産
主 任(事務)	遠藤 祐紀	庶務・経理
農林水産技能員	立津 政吉	餌料培養、魚類種苗生産
臨時的任用職員(兼務対応)	土田 修	餌料培養、魚類種苗生産
会計年度任用職員(栽培技術業務補助員、事務補助)		11名

木村 基文 : 水産海洋技術センター石垣支所 支所長として転出
 金城 裕也 : 商工労働部 産業政策課主任として転出
 中村 博幸 : 水産課 水産企画班から転入
 長濱 秀紀 : 水産海洋技術センター普及班本部駐在から転入
 遠藤 祐紀 : 環境部 環境政策課から転入
 照屋 秀之 : 令和3年度 新採用職員

5. 配付実績

魚介類種苗及びモズク培養種の配付実績(*:2022年1-3月生産・配付)

種 名	配 付 数	配付サイズmm
マダイ*	1.1万尾	40.0 - 91.0
ハマフエフキ	4.3万尾	67.0 - 127.0
スギ	3.1万尾	100.0 - 197.0
ヤイトハタ	6.0万尾	26.0 - 149.0
シラヒゲウニ	11.9万個	10.0 - 47.0
ヒメジャコ	23.8万個	8.0 - 21.0
ヒレジャコ	5.4万個	9.0 - 15.0
オキナワモズク	158L	—

栽培漁業センターの概要

6. 予算 (単位:円)

事業名	当初予算額	決算額	備考
運営費(水産課)	69,000	47,000	
運営費(農林水産総務課:11月令達)	2,518,000	2,470,000	5m生簀1基
栽培センター生産事業 (栽培センター)	68,465,000	56,996,000	
生産業務等支援費	13,325,000	12,496,000	
放流技術開発事業 (栽培センター)	2,263,000	1,640,000	
沖縄振興特別推進交付金事業 (環境制御型循環式生物生産技術開発事業)	68,465,000	56,996,000	ソフト交付金
合計	155,105,000	152,875,000	

7. 施設の概要

(1) 敷地面積等

	基本整備(S55~58)	増強整備(H3~5)	設整備(H8~12)	合計
敷地	11,067㎡		11,963㎡	22,030㎡*
使用海面		5,200㎡(中間育成場)		5,200㎡

※次年度以降、国道拡張に伴い敷地面積縮小

(2) 施設(12. 施設配置図参照)

施設名	構造・規模・能力等	面積(㎡)	備考	施設番号
管理棟	鉄筋コンクリート2階建	396.0	所長室、事務室等	①
車庫	鉄筋コンクリート(トラック・バン・フォーク)	60.0		②
実験棟	鉄筋コンクリート	252.4		③
陸上養殖実験棟	鉄骨ポリカ波板 平屋建	82.5		④
逆洗式濾過施設	自動逆洗重力式砂濾過機:42m ³ /h×2基	6.72		⑤
生簀網倉庫	鉄筋コンクリート	78.15	平成5年度増設	⑥
倉庫建	鉄筋コンクリート、冷凍・冷蔵庫、上屋に貯水タンク(生192kL、濾過96kL)	194.8	令和2年度 移設	⑦
機械棟	鉄筋コンクリート(発電室、ブロワー室)	84.0		⑧
採苗棟	鉄筋スレート、円形コンクリート水槽 (50m ³ ×4面、100m ³ ×2面)	774.0		⑨
ワムシ槽	鉄筋スレート屋根、 四角形コンクリート水槽50m ³ ×10面	607.2	通称 C棟	⑩
稚魚飼育水槽	鉄筋コンクリート屋根、 四角形コンクリート水槽10m ³ ×5面鉄骨	46.2	現在、中間育成水槽として使用	⑪
親魚槽	鉄筋スレート屋根、 円形コンクリート水槽30m ³ ×5面	442.4		⑫
ナンノ水槽	上屋無し 四角形コンクリート水槽100m ³ ×6面	70.0		⑬
貝類飼育棟	ポリカ透明波板	225.0		⑭
沈殿池	素掘り石積み	375.0		⑮
ポンプ室	鉄筋コンクリート (生海水揚水ポンプ:11.0kW×3基)	36.0		⑯

施設名	構造・規模・能力等	面積(m ²)	備考	施設番号
取水井戸	鉄筋コンクリート井戸	27.6		⑰
機械設備棟	鉄筋コンクリート(地下1階、地上1階) 海水取水ポンプ15kW×3基 濾過海水取水ポンプ18.5kW×3基 自動逆洗重力式濾過機:80m ³ ×5基 濾過海水揚水ポンプ×3基 その他、ブロー、発電機、ボイラー等	264.0	地下に取水井戸、 上屋に濾過棟	⑱
餌料培養棟	鉄筋コンクリート、上屋に貯水タンク (生200kL、濾過136kL、淡水70kL)	513.1	研究員室併設	⑲
親魚養成棟	鉄筋ガルバスレート、コンクリート水槽 八角形コンクリート水槽100m ³ ×2面 八角形コンクリート水槽200m ³ ×2面	679.0	2階に生物濾過タンク	⑳
魚類・甲殻類飼育棟	鉄筋ガルバスレートコンクリート水槽 鉄筋透明ポリカ波板 コンクリート水槽	2,016.0	通称 F水槽・S水槽	㉑
介類棟A	鉄筋透明ポリカ波板 平屋建 FRP製角形水槽を設置	1,870.13		㉒
介類棟B	鉄筋透明ポリカ波板 平屋建 FRP製角形水槽を設置	1,862.76	国道拡張工事に伴い、 R2年～3年に建替え	㉓
海面生簀	3m枠×7基、5m枠×22基	5,200.0	スギ、ヤイトハタ、タマン、マダイの中間育成及び親魚養成	㉔

(3)その他関連事項

【 海水揚水量および濾過水量 】

日間最大揚水量 17,942m³/日(生海水+濾過海水)

日間最大濾過水量 11,616m³/日(最大能力)

但し、全基(80m³/hr×5基、42m³/hr×2基)を24時間連続運転させた場合の数値

【 契約電力 】

契約種別 高压電力 季特別A (季特別電力実量制)

契約容量 108kw (2022年3月現在)

8. 施設来訪者

施設見学のため沖縄県立沖縄水産高等学校(3年生)が来所

9. 種苗生産研修

栽培漁業センター再構築事業のため実施せず

10. 普及に移す農林水産技術

(1) シラヒゲウニ用配合飼料の開発

(2) ヤイトハタ人工種苗に対する腹鰭抜去標識の有効性

(3) 釣り筏周辺海域に放流したヤイトハタ人工種苗の定着性と保護・育成効果

(4) 不稔性アナアオサを給餌したシラヒゲウニの親ウニ養成と種苗生産